

政務活動費収支報告書



令和 7 年 4 月 10 日

瑞穂町議会議長

山 崎 栄 様

議員名 原 隆 夫



令和 6 年度政務活動費について、次のとおり収支報告します。

- | | | | | |
|---|---------|----------------|---------|----|
| 1 | 収 入 | （政務活動費交付額 金 | 120,000 | 円） |
| 2 | 支 出 | （政務活動費支出額 金 | 127,835 | 円） |
| 3 | 添 付 書 類 | 支出に係る領収書等の証拠書類 | | |

令和6年度 政務活動費 収支報告書

議員名： 原 隆夫

1 収 入

項 目	金 額	説 明
政務活動費 (①)	120,000 円	当初交付金

2 支 出

項 目	金 額 ※1	説 明
調 査 研 究 費	58,155 円	支出内訳参照
研 修 費	円	
広 報 ・ 広 聴 費	円	
資 料 作 成 費	5,000 円	
資 料 購 入 費	64,680 円	
合 計 (②)	127,835 円	

差引金額 (①-②)	△ 7,835 円 ※2
------------	--------------

※1 使途項目ごとに集計の上記載してください。

※2 差引金額に残余が生じた場合は、この金額を返還してください。
(差引金額が△(マイナス)の場合は返還の必要はありません。)

支出内訳

[illegible]

視 察 報 告 書

議員名 : 原 隆夫

1 期 間 : 令和 7 年 1 月 14 日 (火) ~ 1 月 16 日 (木)

2 参 加 者 : 小川 龍美 下野 義子 原 隆夫
及び 日の出町公明党議員 (2 名)

3 視察先及び視察項目

	都道府県名	市町村名・施設名	視察項目
[1]	宮崎県	都城市	自治体 DX の取り組みについて
[2]	鹿児島県	曾於市	定住促進制度の取り組みについて
[3]	宮崎県	小林市	ハッシン小林プロジェクト (シティプロモーション) の取り組みについて

4 視察報告

(1) 選定理由

- [1] 自治体 DX の取り組みについて、先駆的な取り組みをされていると紹介されており、その内容について学ぶため。
- [2] 人口減少は我が町においても課題となっている。町民を減少させない、これからの生活をわが町で送ってもらえるための取り組みについて学ぶため。
- [3] 我が町にも観光プロモーション係ができ、町の魅力を内外へ発信することに取り組んでいる。その取り組みを更に発展できる取り組みについて学ぶため。

(2) 視察内容

- [1] 都城市では、地域の経営資源 (人、モノ、金) を最大限に活用し、利益の最大化 (市民の幸福と市の発展) を図ることを目指し、民間の力も導入し「都城フィロソフィ=市民の幸福と市の発展」を実現するため、行政のデジタル化を進めていた。進めるにあたり、デジタル化は手段であり、市民目線で、業務改革をセットで考えることとし、課題解決のために、これまでのルールに対しては変更を前提で取り組み事とし、現状より良くなれば OK との視点で、完璧は求めず、少しずつ堅実な前進を目途に取り組まれていた。マイナンバーカード保有率 89%、この活用で検診や予防接種、母子支援などに連携、サービス向上につなげることから

始め、原則、全手続きのオンライン化に対応を進め、全国初のキャッシュレス対応を実現した。その他、デジタル面接、デジタル活用支援推進事業に取り組んでいた。市の事業で、デジタル化が効果を発揮するもの、人的支援が効果を発揮するものを見極め、全ては市民の役に立ち、利便性向上、満足度向上につながる手法を推進し、官民共創により新しい価値の創造を目指している。

- [2] 曾於市では、新生児の人数減、高齢化の上昇を鑑み、移住・定住の施策をすべきと考え、定住化の事業を推進開始した。主な取り組みは、住宅取得祝い金制度の導入、食の支援事業、オーダーメイド型移住体験ツアー、結婚新生活支援補助金で、他自治体との差別化を意識し、工夫に取り組んでいた。安心して生活・子育てができる環境づくりが大切であり、課題を分析し、それを少しでも克服し、人口増に向けて取り組むことを大切にして事業推進に取り組んでいた。

- [3] 小林市は市の食（宮崎牛、果物）、自然（景観、水）、方言を誇りに思い、内外にこの魅力を発信していきたいと考え、シティプロモーションの取り組みを行っていた。コンセプトは、発信（みんなでハッシン）・発進（新たな形で情報をハッシン）・発振（ハッシンの波を起こす）。“ハッシン”をキーワードに多様な人と一緒になって小林市の魅力を広める「ハッシンコバヤシ！！プロジェクト」を推進していた。具体的には、市出身の有名人の人脈を生かした市の魅力の発信（PR 動画、印刷物）、地域の方々と一緒に CM づくり、行動喚起を連鎖させるプロモーションの挑戦（イベントの実施、SNS の活用、ロケ地巡りなど）、CM に合わせた、地域資源（宮崎牛、フルーツ、キャビア、水など）のキャンペーンなどメディアを使った発信を展開し、市の魅力発信に努めていた。

（3）町にどのような提言ができるか

- [1] 町はDX推進方針・実施計画を策定し、取り組んできているが、先駆的取組も研究した上で、町民の福祉向上、デジタル化により効率的な恩恵を得られるよう全庁挙げてチャレンジしていくべき。
- [2] 町はモノレール延伸決定による新たなまちづくり構想を推進しているが、少子化に対応する施策の推進がカギを握る。立地的利便性と共に、町の自然、人柄、子育ての環境など、良いところを強調し、住みよい街のPRと共に、住み続けたいという環境づくりが重要と考える。
- [3] 町もシティプロモーションビデオを作成し、町のPRを開始している。人気の公式キャラクターみずほまるやさまざまな資源を活用し、今後のモノレール延伸も踏まえ、自然豊かで温かい人の町など、町の将来性を踏まえた積極的なPRを進めるべき。

5 旅 費 :

月日	鉄道名(乗車経路)・ 宿泊場所	鉄 路	特 急	飛 行 機	車 両 (バス等)	レンタカー (借上料)	その他	宿泊料
11/26	航空費・宿泊代・レンタカー代						56,600	
小 計							56,600	
		合 計 56,600 円						

6 交通費 : ガソリン代 723 円

有料道路通行料 832 円

駐車場代 円

計 1,555 円

7 手数料 : 円

8 保険料 : 円

9 資料代 : 円

10 その他 () : 円

総 合 計 58,155 円